



藤枝市中ノ合26-1
 医療法人社団 ^{しま} ^{かい} 八洲会
誠和藤枝病院
 <054>638-3111(代)
 診療時間
 月～金
 午前9:00～午後5:00
 土
 午前9:00～午前12:00

『古い・呆け・虐待など』

誠和藤枝病院院長 浅川 建史

私の両親は、大きな病気や怪我をする事もなく、大正、昭和、平成を生き抜き、今年八十九歳と八十二歳になりました。耳は遠くなり、さすがに動作はゆったりとしてきましたが、相変わらず口は達者で、会いに行くたびに、私がこどもの頃の事を持ち出しては、いまだにこまごまとした説教をたれるのには閉口します。しかし、この職場で大勢の認知症（痴呆症）老人とご家族に接するにつけ、人が老いていくのは仕方ないこととはいつても、自分の両親が呆けていないことがこれほど、幸せでありがたいことはないと思うようになりまし。私たちがお世話をする痴呆老人の中には、働き盛りの頃、家族や世間の尊敬を一身に集め活躍した要職の人たちも数多くいます。親を尊敬し大切に思うご家庭であるほど、その痴呆に直面した、ご家族のとまどいとあせりは察してあまりがありません。

先日の新聞記事に、平成十六年度静岡県内で、過去一年間に家庭内で虐待を受けた高齢者が、千五百四十四人と驚くべき実態調査が緊急報告され

ました。身体的心理的虐待、介護放棄、などは、特殊な事例ではなく、どこの家庭にも潜在的に存在する問題と捕らえています。親の存在をかけがえないものと考え、介護に熱心な人ほど、裏返しとしての老人虐待の可能性を示唆しています。かつて、高度成長期の社会変化が、家族の形態を大きく変え、人の価値観に大きく影響したことがありました。現在は、未曾有の少子高齢化社会の進行と不況にあつて、日本は未経験の家族関係に直面していることだけは確かなように思われます。身体機能、精神機能が、決定的に衰えた高齢者と、その周りの介護者にとって、適切な介護の形は、具体的にどうあるべきか？安全対策は、設備は、個人差や環境の違いに、どう対応するのか？おぼつかない様子で歩く老人のそばを、車が猛スピードで追い越していく風景は無気味で、象徴的です。

精神活動度や身体活動度が衰えた高齢者に対して、どのような介護が、安全で、高齢者本人や、迷える介護者達の生活を向上維持させるのか、社会がどのように対応するべきか、施設はどのように対応するべきか、何も確立されたものではなく、未知の世界です。もちろん経済的な効率だけでなく、老人問題は捕らえられないと同時に、親は子供が面倒をみるものという従来からの規範論や感情論だけで解決できる単純で生やさしい問題でないことも確かです。

私たち、誠和藤枝病院の職員は、これからも静岡県近隣の高齢者を抱えるご家庭のために、実際の医療介護プランに基づくサービスを提供していきます。同時に、様々な個々の事例に対する試行錯誤の成果を正確に評価し、気負うことなく、冷静な情報を提供できる施設として、これからも励んでいきたいと思っております。

身体拘束について

看護師総師長 布施紀代子

先日、「身体拘束ゼロ作戦推進研修会」に参加させていたゞき、そこで講師の先生方のお話や、実践報告をお聞きして、あらためて「身体拘束」について考えさせられる機会を得ました。ところで、身体拘束が何れ問題になるのかというと、身体的、精神的、社会的なことは言うに及ばず、この「拘束」が日常化してしまうことが、



さらに問題を大きくしているということでした。そこで、拘束をはずせない理由として、拘束をめぐる固定観念や、神話（誤解）があるためではないかということですが、そのいくつか、「拘束を外すと転倒し、骨折するので拘束はするべきである」とか、「傷害から患者を守るのは看護師の道徳的義務である」とか、「拘束しても老人にはそんなに苦痛はない」とか、「拘束はしたくないがスタッフがないので……」等々が挙げられるとのことでした。私達は、毎日の看護、介護に追われる中で、このような観念に捕われてしまっているのではないのでしょうか。私達はまず、このような観念から、自分自身の脱却をはかっていくことが、大切であると思いました。ケアの本質とは、「そこへ立ち戻ることの勇気が大切である」と講師は言っておられました。私も正直言って頭を「ガツン」と殴られたような気がしました。常日頃、

「患者さんのためだから」とか、「転倒、転落事故を起こすと困るから」とか、「事故報告を少なくするために」、あるいは、「患者様は、痴呆性高齢者で、こちらの言うことは理解できないのだからしかたがない」と看護師側の自己防衛や、患者様のせいにして、勝手に解釈していることもしばしばで、大いに反省させられた次第です。今回の研修で、身体拘束の廃止の必要性を強く感じました。それは、身体拘束を誘発する原因をアセスメントすること。基本的ケアを徹底しておこなうこと。ケアの質の向上へ向けて努力すること。これらのことが看護師の真の「仕事甲斐」をもたらすことにつながるということを学ばせていただきました。今後これらを踏まえて、看護職、介護職共々、努力してゆきたいと思っております。



新年あけましておめでとうございます。

昨年では当通所リハビリにとりまして実りの多い一年になりました。送迎の車もふえ、利用者様の時間帯に合わせた送迎ができるようになりました。

又、通所リハ専用の畑も出来、収穫を楽しむ事ができました。スタッフ内では、各自勉強会参加、通所内カンファレンスと日々利用者様に満足いただけるようはげんできました。

今年は、スタッフ一同力を合わせて、利用者様個々のニーズに合わせた自立支援と楽しい通所内でのレクリエーションの提供に努力していきたいと思っております。

どうぞ今年もよろしくお願い致します。

滝川 由美

びょうりょうしょうがい 病棟紹介



2A病棟紹介

2A病棟は重症の患者様が多い病棟です。常に緊張感を持つての勤務となります。そのために患者様のどんな小さな変化もスタッフにとっては大きな出来事です。

意志疎通を図る事が困難な患者様に対して常に呼びかけたり、日常の他愛ない声かけにて、時折見せて下さる「笑顔」「微笑」。

私達が、ホットする一瞬、喜びの一瞬でもあります。

患者様の「笑顔」と「ありがとう」の言葉に支えられて、あたたかみのあるお世話を心がけています。

家族の方々から信頼され、患者様が穏やかに過ごしてもらえような病棟であつたらと思えます。



1B病棟

一月に引越し、陽差しも明るく風も心地よい介護病棟は、デイルームよりスロープ伝いに中庭に出る事ができます。

天気の良い日には、患者さんと共に散歩をし乍ら花を摘む事もあります。横には葉梨川が流れ、廻りを緑に囲まれた絶好のロケーションです。

デイルームではT夫さんとMさんが、「何所の出だね?」「若い頃の仕事はね:。」と、お互いにこやかに話しています。独歩のT夫さんは、デイルームで過ごす事を楽しみにしています。

介護度4、5を占める当病棟は、痛い掻い苦しい切ない:等訴える事の出来ない患者さんが殆んどですが、私達は手を握りみつめるスキンシップを心掛けています。心の目で何かを見い出せばと、日々思い乍らお世話をさせて頂いています。



1B病棟

「Kさんが声を出したヨ!」と、詰め所へ飛び込むナース。

脳梗塞、糖尿病、経管栄養、四肢拘縮のあるKさんは介護病棟へ転院して間がなく、喋れない患者さんだと思っていました。Kさんはスタッフのアプローチで、病に倒れてから初めて髪に触れ、膝も触れる様になりました。最近では、日夜問わず胃管を抜去してしまう位になりました。昼夜は嚥下食訓練を行い、講音障害を伴い乍らも歌を口ずさみ又、憎まれ口も言います。天気の良い日には、デイルームよりスロープ伝いに中庭に出て、散歩し乍ら花を摘む事もあります。

介護度4、5を占める当病棟では、痛い掻い苦しい切ない:等訴える事が出来ない患者さんが殆んどですが、私達は手を握りみつめるスキンシップを心掛けています。心の目で何かを見い出せばと、日々思い乍らお世話をさせて頂いています。

健康一回メモ

理学療法士 柳谷秀之

関節の動きが悪くなるとその関節だけでなく、遠く離れた場所にも痛みやしびれが出ることが分かってきました。この状態を関節機能障害といいます。これまで、痛みは神経の刺激によるものだと考えられてきました。しかし、脊椎の変形、椎間板ヘルニア、股関節・膝関節の変形等に伴う痛み、あるいはむち打ち症、脳卒中の肩痛等変形以外の痛みな

どは、関節の調節で消えるものが多く、ほとんどの場合その原因は、関節の機能障害によるものであることが治療の結果で証明されています。身体の中のどの部分の痛みを有する患者さんも、まず関節の調節を受けてみる価値は十分あります。

当院の理学療法室では医療の中の理学療法原点に立ち返り、座る、立つ、歩く、の訓練にとどまらず二次的に起こる関節や筋肉の機能障害へ積極的に治療を行ってまいります。

これからも宜しくお願い致します。

2 A病棟介護

槇村 紗季

私が介護という仕事に就き、3年が経とうとしています。未だに、失敗も多く落ち込む事もありますが、患者様の笑顔に励まされ、日々仕事を頑張っています。これからも、患者様の笑顔を励みに、よりよい介護が出来るように頑張りたいと思います。

大盛 真由美

入職してもうすぐ1年になります。最初は、患者さんの名前と顔や、仕事の内容を早く覚えようと精一杯で、毎日緊張のしっぱなしでしたが、ようやく慣れてきました。が、まだまだ未熟な私ですので、これからも御指導よろしくお願いします。

言語聴覚士

西野 ふみ子

入職して10ヶ月たちます。



患者様との会話に季節の話題があがりますが、それを実感する間もない程の日々でした。明るく楽しい先輩方、患者様達に囲まれて、これからも笑顔で頑張りたいと思います。

1 B病棟

鈴木 こず江

誠和藤枝病院に就職して半年が過ぎました。最初は戸惑うことが、みなさんの支えもあって充実した毎日を送っています。介護の仕事は思った以上に大変な仕事ですが、その分やりがいがある仕事です。私は患者さんの笑顔が大好きなので、負けないくらいの笑顔で接していきたいと思います。そして、これからも私なりに一生懸命頑張るのでよろしくお願致します。

高齢者にやさしい食べやすいお餅

管理栄養士 大塩 美穂

もち是有名の粘りや、のびて切れにくい性質があり、高齢者には噛み切りにくく、飲み込みにくい食べ物です。

また、のどにつまらせて窒息を招く恐れもあります。

そこで身近にある食材を利用して、もちと似たような食感で粘りやべたつきが少なく食べやすい、お粥で作る団子の料理の一つを紹介します。

☆ぜんざい☆

材料 (1人分)

A	小豆(乾)...	15g
	砂糖	15g
	こしあん	10g
	塩	少々
B	お粥	20g
	小麦粉	5g

〈作り方〉

- ①: A小豆(乾)を茹でる。
(最初の茹で汁はこぼし、再び水を入れやわらかくなるまで煮る)
- ②: 小豆がやわらかくなったら砂糖、こしあん、塩を入れる。
(水分が足りないようなら水分を足す)
- ③: 沸騰した湯に、一口大にまるめたBを入れ浮いてきたらすくい上げる。
- ④: 器に③を入れ、②をかけたなら出来上がり!!



職員募集

- | | |
|----------|--------|
| ◎正・准看護師 | ◎理学療法士 |
| ◎作業療法士 | ◎言語聴覚士 |
| ◎介護支援専門員 | ◎介護職員 |

詳しいお問い合わせは TEL (054)638-3111 担当 事務長

編集後記

命いっぱい
夢いっぱい